

保険医年金の
59年度利廻り確定

9.06%

(募集は年1回、9・10月)

石川保険医新聞

発行所
石川県保険医協会
金沢市尾張町1丁目9番11号
尾張町レジデンス2F (〒920)
電話 (0762) 22-5373番
発行人 後藤 博之
印刷所 ユーアイ印刷
(会費月額 3,800円)



女独り何ぞ ひとすら 鮎を釣り (としお)

俳句
撮影
宮栗
村野
明利
子雄

医心凡語

〃石川の大地に
流せ 君の汗〃。
六十年全国高等
学校総合体育大会
のスローガンだ。
高校生の汗と涙を
たっぷり吸い込んだ県立
陸上競技場で、ウチワ片手
に炎天にさらされながら、
びちびちした躍動美を觀賞
してきた。決勝種目が多く
て残念ながら石川県勢を応
援するチャンスがない。

それでも女子走幅跳びなど
で逆転が相次ぎ、フィール
ド、トラックからの気迫と
熱気が伝わって、何度も目
頭が熱くなる。
開会式で総勢一五六名が
暑さでダウンしたと聞いて
も責められない。大人達の
長い長い演説が悪かったこ
とにしておこう。
多くのユニホーム姿に、
一方では平和の大切さがひ
しひしと感じられた。四十
年前の八月十五日、窓とい
う窓の黒い暗幕をひきちぎ
り、電燈の蔽いを思い切り
むしり取って迎えた夜の嬉
しさを今でも忘れることが
できない。子供心にも広島
長崎の惨状をみて、戦争だ
けは絶対に嫌だと思った。

このところ相手国への疑
心が疑心を生んで、SFま
がいの妄想が横行している。
戦争反対は理屈ではない。
核兵器を含めて戦争そのも
のに強い拒絶反応がいま必
要なのは。

競技場をあとにしなが
ら
高校総体が平和のうちに続
くよう祈らずにおれなかつ
た。

快進撃の西部ライオンズ

監督としての素顔

広岡野球の真髓を聞く

基本の△り返し
を徹底

梅雨空のうっとうしい一夜、金沢でのロッテ戦を控えた西部ライオンズ監督の広岡さんと対で夕食を共にして話を聞く機会を得ました。マスコミでは知り得ない本音と素顔を知りました。

『ライオンズは五十七、五十八年とV2を達成しましたが、その勝因は何でしょう。それは当時のベテランが活躍してくれたこと、良いコーチに恵まれたからです。特に森コーチ（今は退団）はコーチとしては日本一だと思います。』

『広岡さんも監督としては日本一だと思いますが、これはやはりチーム管理、いや、これを言いますと叱られるかも知れませんが、管理野球のためです。』

『どうあるべきか、例えば自分の健康についても常に最高に』

ないが、でも
納得するまで

『教えるの簡単におっしゃいますが、教えることぐらいむづかしいものはないと思うのですが。』

『ほんとうにそのとおりです。教え方には色々ありますが、僕はまず一つ一つ自分でやってみせませう。それで理解出来なければ一段程度を上げて教え、それでも駄目なら更にもう一段下げて徹底的に解るまで教えることにしています。』

『色々やってみました。合気道、居合い、ゴルフ、マージャン、競輪、競馬、オートレースまで。これは浪人時代の話ですが、毎日、大井の競馬場へ朝早く出かけ、競争馬の様子を観察し克明に記録しました。ほぼ二年ぐらい凝りましたよ。』

『しておく責任がある。そのためには食事はどうすべきかと、個々のバイオリズムに合わせた練習はどうあるべきか全く基本的なことを教えるだけです。選手の中には、こんな簡単なことさえ理解していない者がいますからね』

結果より過程を
重視

『今は何を。』
『東洋館を集めています、これも大変で、新しい館を手に入れると、その原産地の山や谷まで出かけて、どんな環境で生えているかを知るため二、三日歩き廻ります。』

『それは何と言っても、良いコーチを持つこと、次に野球以外の幅広い知識、それも自分で体験した知識を持つことだと思ふ。』
『先日、田淵君と話していた、彼もいづれ監督になりたいたいと言っていて、それなら今から手足になってくれるコーチを探しておくよう話したら、そんなもの今から探す必要あるのですか、と言っていたが、とんでもない、何も知っていないなと思った。』

『それは確かにそのとおりです。病院でも、いくら院長が立派でも、それを支えてくれるスタッフが良くないと良い医療は出来ませんからね。』

『凝り性なんです。一つ何かやり出すと自分で納得しなければ気がすまないで、家内はもうあきれかたで、何も言いません。それでこれはこんなものかと思ってしまうと、さっと止めてしま

『最後に、監督のこれまでを通しての人生訓といえますか、それと広岡野球の真髓をお聞かせ下さい。』

『生れは貴族、親父は海軍の軍人で、それは厳しい人でしたよ。今の子供は羨がなっていないと思う。でも今日、星稜高校で練習をみて来たが皆ハキハキと礼儀の正しいのに驚いた。これは気持ちのいいものです。』

インタビューを終えて
肌を感じた
勝負師の気骨

私はかねて、マスコミを通して見聞きした広岡監督に、人間の興味があつた。会えることが決まると慌てて本屋へ走り、著書を二冊読んでみた。読んでいるうち、この人はかなりの変人だと思ひ始めた。そうして何だか会うのがおっくうになった。当日、色々話題を考え考えしながら出掛けたが、会って二、三分でこの不安が消えた。少しだけ見る通りだが、気負いも重圧感もない、ひょうひょうとした、これがあのV2をしたチームの監督とは、とても信じ難い印象だった。

『そうして酒が周りだと一層よく話し、初対面の私に、こんなことまで喋っているかと思うこともあった。しかし自分が心に強く感じている話題や道理に反することの話題になると、きりっとした顔と目付きに激しい闘志のようなものが見えた。やはり勝負師で人一倍正義感の強い男なのだと感じた。』

『又、子供の話、特に娘さんの話は顔が崩れればかりだった。彼も一人の父親なのだ。』
『広岡さんは昭和七年生れ、いわゆる昭和の一桁族で、モレッツ人間の片鱗を見た思いだった。』



気さくにサインに応ずる広岡監督

広岡達郎氏の略歴

出身地、広島県呉市 早稲田大学時代六大学で活躍
昭和二十九年、巨人軍へ入団、名遊撃手として活躍
四十一年当時の川上首脳陣と野球に対する考え方の相違で退団。その後、アメリカへ遊学、各地の大リーグを見て歩き、二年の充電期間の後、
四十五年、広島のコーチを二年間勤める。
四十九年、ヤクルトのコーチ、五十一年監督に。
五十三年、阪急を破り日本一となる。
五十七年、西部ライオンズの監督に招聘、
五十七、五十八年と連続日本一の栄冠を得る。
著書『意識革命のすすめ』、『積極思想のすすめ』など。

グループ保険の配当率 過去最高の四〇・二%

毎年五、六月に普及している「協会グループ保険」は一年毎に収支決算をし、剰余金が出た場合は加入者に還元金としてお返しする制度です。
昭和五十九年度は三四八名（配偶者を含む）の加入者があり、幸いこの一年間の死亡者がゼロであり、又本年四月より保険料率がダウンしていることを反映して、七月末の決算では四〇・二%の高配当となりました。
加入者のみなさんには十月上旬に年間保険料の四〇・二%（但し、振込手数料六〇〇円を差し引いて）を指定口座に送金しますのでご了承下さい。
この還元金は払込保険料の割戻しですから非課税扱いになります。
なお、これまでの配当率は、
五十六年度 一九・二%
五十七年度 一九・二%
五十八年度 二五・一%
であり、五十九年度の四〇・二%は過去最高となっています。

前号のお悩みに

赤ずむ注射器の洗いか方

本紙前号にて「赤ずむ注射器」の洗浄法についての悩みが載せられていましたので自院の方法を紹介いたします。

まず、クロム硫酸液(五〇〇mlの濃硫酸に五〇gの重ク

ロム酸カリの細末を混和したもの)に汚れた注射器を約五分間ひたします。あとは水道水で洗うだけ。なかなか取れにくかった注射器の内側の汚れも、不思議なくらいにきれ

いに落ちます。クロム硫酸液は、水が混入しないように注意すれば何度でも使用できます。廃棄したい時は、重曹を

使用して中和します。(炭酸ガスが出なくなれば中和されています。)

—N生—

苦い体験

五十八年二月、老人保健制度が発足し、当市でもすこやか検診が実施されるようになったが、それにまつわる苦い体験をひとつ。高血圧症にて

通院中の七十五歳男性。五十七年まで、市から検診の通知が来る毎に「胃も診て下さい」と毎年一回レントゲン検査を

実施していたが、著変をみとめなかった。特定年齢以外の胃検診が出来なくなつて、三年目の今年、「先生、最近少し食べても、すぐ腹一杯にな

り、だんだんやせて来た」と

引上げも即受診抑制につながることは明らかで、その点、大幅な負担を強いる定率負担の導入を否定したことは評価される。しかしながら定額負

明であり、厚生省の出力を慎重に見守る必要がある。加入者按分率の問題は、国保の財政悪化がその底辺にある。即ち退職者医療制度の創設によって大幅な国庫補助削減を行いつつ、退職者の見込みで財政基盤の弱体化と赤字の増加を招いたこと、加入者按分率が年々引き下げられ(原則五〇%、現行四四・七%)、老人を多く抱える

(内科医)

読者のコーナー



厚相の諮問機関である老人保健審議会は、七月十八日、老人保健制度の見直しに関する中間意見をまとめた。その中で①一部負担については現行の定額制を維持しながら無理のない範囲内で引き上げを検討すべきだ。②老人保健制度運営のため国保、組合健保などの各保険者が分担している拠出金の負担方式を、現行の加入者按分率四四・七%から一〇〇%にすることを目指し、主に組合健保の負担割合を拡大する一を柱に提言している。

論 持

厚生省にゲタを預けた老健審の中間意見

厚生省はこれを受けて直ちに老人保健法の改正作業に取り組みと共に、八月末にまとめて概算要求に反映させる方

針だが、定額負担の引き上げ幅はどうするのか、加入者按分率の引き上げを、どの程度にするのか、といった実施策については触れられておらず、

担の増について「必要な受診を抑制しないよう慎重に配慮しながら、老人にとって無理のない範囲内で」と述べた範囲とは、どの辺を指すのか不

明であり、厚生省の出力を慎重に見守る必要がある。加入者按分率の問題は、国保の財政悪化がその底辺にある。即ち退職者医療制度の創設によって大幅な国庫補助削減を行いつつ、退職者の見込みで財政基盤の弱体化と赤字の増加を招いたこと、加入者按分率が年々引き下げられ(原則五〇%、現行四四・七%)、老人を多く抱える

今度の答申は国保の負担軽減につながる歓迎されるが、これのみにて国保の財政が好転するはずもなく、更に根強い国庫補助アップの運動を続けなければならない。

掘り下げてほしい 保険証のカード化

金沢市 高島 朔

保険証のICカード化の問題を具体的に掘り下げて掲載

してほしい。
①現在のICカードはどのくらいのカルテ、又は情報が入るのか。
②厚生省は何を入れようとしているのか。何を企んでいるのか。
③ICカードの読み取り、書き込みのハードの経費は誰がどの位負担するのか。「お上」のために余分の出費は御免被りたいものである。
④関係者のコンセンサスを得る何事も行わずに押し切られてはかなわない。



栗野先生(右から2人目)の案内で金沢市内めぐりをする 保団連機関紙部員一行(7月28日、兼六園にて)

全国機関紙部会

金沢で始めて開催

七月二十八日

昭和六十年度の第二回保団連機関紙部会が移動部会のた

担当役員を中心に二十名の参加があった。石川協会からは本戸機関紙部員はじめ栗野、高松両先生が参加。部会では①老人医療の改悪反対、②核戦争防止の運動、③国家機密法案の取扱い、④参院選を控えた医政連盟の動きなどにつき各地の活動や機関紙上の取扱いをめぐって活発に討議が行われた。特に全国紙の役割として、①医療をめぐる情勢と、②それに対応する保団連の政策と方針を迅速に伝える、③各地の活動を報道して、会員が積極的に参加できるように宣伝することが強調された。この中で石川協会では取り組んでいない核戦争防止の国際署名運動(ヒロシマ・ナガサキアピール)などについては、方波見(かたばみ)機関紙部長から全協会の合意が

加賀の山中 恐ろしいところ夜の夜中に ししが出る「しし喰う」という言葉は以前から、なんとなく知ってはいたが、その謂れは、ずっと知らなかった。山中節に唱われて、加賀温泉郷の昔からの情緒として、「しし」が愛嬌よくいたとは。勤務医時代のこと。地元の今は亡きN面伯を囲む酒席に出た。時と共に興にのった画伯の、博学の四方山話も次々と出て、並入る人たちを大いに魅了した。ふと算数の式を書いて、「はかられるよう努力していくと同時に先進県の活動だけに焦点を当てるのでなく、まだ取り組んでいない協会へも配慮した紙面構成をしていくと述べられた。この他、長期的な宣伝企画、読ませる工夫(活字を大きく、「北から南から」の重視、全国紙のアンケート方法)や全国機関紙担当者交流集会の開催打合せ(十一月二十三・二十四日、新大阪チサンホテルにて)などが行われた。なお、前日(二十七日)「松魚亭」にて石川協会編集部と保団連機関紙部との交流会がなごやかに行われ、又、部会終了後、栗野利雄先生が案内役となって兼六園一成閣一景観光物産館一丸谷焼光仙窯一長町武家屋敷跡一加賀友禅工房一彩筆庵をそれぞれ見学して散会した。

シシクった
ムクイで……



北信越ブロック 初の地域医療交流集会

七月二十一日、富山県民会館において保団連北信越ブロックの初めての地域医療交流集会が、魅力ある開業医像や病診連携の在り方を探っていくことを目的に五県より三十名が参加して開かれた。

まず保団連地域医療対策部長・池尻重義先生より、「下からの地域医療」と題して基調提案があり、臨調行革路線による一連の医療と福祉の圧迫政策や病院への大型資本の投入や医療分野の国際化、技術革新、医師急増、疾病構造の変化等で地域医療も混沌とし多様化してきている。従って地域医療活動も多様化に見合った発想が大切で多面的に取り組む必要がある。そこに小回りの効く開業医の特色も生かされるであろう。各地の協会で手作りの活動が芽生えており、この中から典型づく

各地で多彩な医療活動

理事 大野 幸 治

が必要で、今回のような地域医療交流集会の必要性が述べられた。

続いて各県よりの実践報告がなされた。

〔在宅医療〕①保険医協会とほけ老人をかかえる家族の会(富山)撰連、②老人のデイ・ケア(福井)荒木

〔健康教育・健康相談〕①医学講座及びダンス教室を通じての住民の健康づくり(富山)中村、②健康なんでも相談のとくみ(石川)喜多

③坂井郡における肥満児童対策(福井)西野、④院内新聞の発行ほか(各県)

〔慢性疾患の指導管理〕①慢性疾患の指導管理のマニュアルづくり(石川)西村、②りんどう会神山分会の発足と活動(長野)文書

〔医療機関相互の連携〕①セミナーシステムと開業医(富山)山本、②病診連携の在り方を探る(石川)井沢、③病理検査を通じての病診連携へ(新潟)田代、④眼科のオープン診療(新潟)文書)等。



北信越5県から12のレポートが提出された第1回地域医療交流集会(7月21日、富山県民会館)

開催を期待

今回は初めての交流会であったので報告に時間がとられ、意見交換があまり出来なかったのが残念でした。しかし北信越の各県でかなり色々な地域医療活動が行われていることが分かり、今すぐそれを実践出来ないにしても、これからの参考として有意義な交流会だったと思います。今後回を重ねることにより、地域医療活動のいくつかの典型が生まれることと思います。

(地域医療対策部長)

家庭医構想とこれからの開業医像

会長 後藤 田 博 之

第一分科会は「開業医と家庭医制度(A)」のテーマで、前沢自治医大助教授が助言者となって実施された。

参加者は三〇名、西野常任幹事の司会で午前中は河野副会長の提案した家庭医制度の

説明に対して参加者全員から「家庭医の在り方」についてのフリートーキングが行われた。

発言内容はいろいろあり、医療費抑制の問題、医師増、特に若手医師は大病院を希望

し、一方開業医は老齢化し、更に診療報酬面から見ても経営は増々困難となる。このような制度が実施されるならば日本の医療は崩壊すると強い発言者もあった。

全般的に見て、開業医は厚生省の考えている家庭医制度の認識は浅く、又、厚生省の「家庭医に関するプロジェクトチーム」「家庭医制度創設準備検討会」の構成メンバーを見て開業医代表を無視したものである。このようなメンバーで家庭医制度が認定されるならば、これまでの開業医制度は崩壊するものと考えられる。

これに対して助言者から米国のホームドクターの在り方について説明がありました。現在、厚生省の考えている家庭医制度によく似ていて長所

保 団 連 の

第15回夏季学習会

《7月13・14日 東京で》

参加者の声

午後、トップに岩崎先生が発言され、厚生省の家庭医構想は、健康政策局の若手技官を中心に検討がすすめられた。今回、家庭医に関する懇談会が発足したが、卒直に言ってこのメンバーには、第一線の医療現場に携わっている人がおらず大いに不満である。しかし来年六月ごろまでには答申を出さねばならず、残された期間に少しでもわれわれの要求が反映されるよう運動しなければならぬ。私見であるが、十分な医療費配分がなされねばならないと結ばれまし

もあるが、私としては全面的に賛成出来ないが、参加者の中から両者の意見に賛成であるとの発言もあり、意外でした。

午後には開業医制度の利点、欠点。家庭医が認定されれば従来の専門医はどうなるか。経営面から見た家庭医。これからの開業医並びに保団連は

どのような対応をとるべきか等の討論が行われた。最後に私の受けた感想としては厚生省の家庭医構想をよく研究し、厚生省が何故このような制度を作る考えになったかを開業医も反省し、国民から理解を得るよう努力すべきでなかろうかと思えます。

家庭医構想に二つの流れ

喜 多

徹



第二分科会「開業医と家庭医制度(B)」は、家庭医の主に制度面についての検討がメインテーマでした。

最初、自己紹介を兼ねて、出席者全員が一言、つづつ抱負を述べましたが、岩崎厚生省病院管理研究所部長が助言者として出席されていることもあ

り、家庭医制度についての厚生省の本音を聞きたいとの意見が多く出されました。

次に成原保団連常任幹事が基調提案され、この中で家庭医構想には二つの流れがある。一つはプライマリケアの担当医として質量共に育成していくこととする流れで、もう一

つは医療費抑制のための一次医療を規制していくこととする流れであるとき、プライマリケアの概念、諸外国のプライマリケアの実情を参考にしながら今後、健康管理医、振り分け医に限定される考え方には反対し、しっかりした家庭医育成のプログラムを作

るが家庭医制度は時代の要請であり、開業医自身すすんでヘルス事業に切りこんでいくとか、二次医療との連携を密にするとか、何らかの自己努力が必要と述べられました。

その後、出席者全員の自由討論となりましたが、日頃のフラストレーション解消のためか、自分の考えを繰り返して主張される方がいて最後はやまとまりを欠く印象でしたが、結論的に言えば家庭専門医を養成していくこと賛成、しかし現実の政治力学上、家庭医制度の早期導入大反対というところだと思えます。

第五回歯科医科隣接医学懇談会

とき 九月七日(土) 午後七時

ところ 金沢都ホテル 5階

話題提供 「出血性素因と歯科治療」

講師 金沢大学医学部第三内科教授 松田 保 先生

※歯科・医科を問わず多くの会員諸先生のご出席をおすすめします。



御堂を使って第47回健康なんでも相談
(7月22日、大樋町泉龍寺にて)

最近情報化時代といわれ、政治・経済のしくみに大変な変化が現われ、われわれの生活も又、変化・向上して参りました。

大樋町児安会会長
神谷三郎

医学の進歩に 目を見張る

大樋町児安会会長
神谷三郎

でも相談」を実施されました。出席者はほとんど御婦人で、男性の余りに少ないのにまず驚きました。無関心とは思いませんが、この辺にも女性の寿命が男性より長い原因の一端があるのでしょうか。

お話しは成人病の種類、それぞれの病状、治療方法、予防法、食生活の重要性等わかり易く丁寧に多岐に亘り説明され、特に早期発見による早期治療で今では痛でも全治できるとのこと、新しい認識の一言を知ることができました。特に癌は年齢に関係がないものと思っておりましたが、老

七月二十九日、第四十八回「健康なんでも相談」が、矢木町親寿会の主催で行われました。会場の美和会館には冷房がなく、たいへん暑い中、十七名の参加者は、うちわを持って訪れました。

最初に、山口親寿会会長が挨拶。続いて森下(外科)先生が長寿について話題提供されました。「最近、寿命がどんどん伸びて来てはいるが、必ずしも健康的な老後を送っているとは言えない。もっと、すこやかに楽しく、生き生きと過ごさねばいけない。」と、ご自身で書かれた『長寿の為に努めたいこと』というプリントを使って話されました。続いて大橋(外科)先生の司会で、相談に移りました。相談医として参加された大野(内科)先生には、「サウナを続けているが、年寄りでも大丈夫か」、「甘いものが好きだが糖尿病が心配」など、たくさん質問が寄せられ、外科の面先生には、「何もしないのに筋肉痛が激しい」、「骨の型が変わってきた」、「リウマチと神経痛の違いは」等の質問があった。

第48回健康なんでも相談

健やかな老後のために

矢木町親寿会で

研究会のおさそいで、あらかじめお知らせした講演要旨と重複する部分は省略します。戦後四十年経った現在、感染症・栄養失調が減り、糖尿病・脳梗塞・心筋梗塞・肥満などの慢性疾患が増えている。日本全国で、高血圧二千万人、糖尿病二百万人、高尿酸血症二百万人、肝疾患五十万人の患者がいると推定される。開業医一人当たり高血圧五百名、糖尿病五十名の患者を管理していなくてはならない計算となるが、慢性疾患患者は無自覚と無知のため、ほとんどが放置されている。

福岡県久山町や千葉県茂原長生郡では、検診を精力的にやることにより、高血圧症患者を早期に発見し治療を早期に開始することが可能となり、高血圧の合併症の発生が激減している。開業医こそ、住民に検診の必要性を説き、検診を積極的に推し進めるべき立場にある。

これからの開業医シリーズ・第1回

実地医家にすぐに役立つ 慢性疾患の管理(糖尿病を例として)

神奈川県保険医協会
地域医療対策部長
平尾紘一先生



開業医の日常診療上の留意点として、初診時に検尿・血圧測定を必ず実施し、問診による診察パターンを利用して、確実に慢性疾患をみつめることが上げられる。

①自己検尿と体重測定が自己管理の基本である。②肥満が改善しても、まだ高血糖のものよりも、肥満は改善しないが血糖コントロール良好の方が、合併症出現が多い。④糖尿病の合併症は無自覚のまま進行し、自覚症状が現れてからでは手遅れである。」をあら

これからの開業医は、待つ医療から出かける医療に、病気をみる医療から予防やリハビリテーションを手がけるようにならなければならない。今、診断医学と同時に生活の変更に具体的な指導できる治療医学の確立が望まれており、それをできるのが開業医である。(理事 西村邦雄 記)

「患者の会」は、患者同志で教育し合うところに利点があり、患者の行動の変化を容易に起こすことができ、診療する側としては「患者の会」を積極的に組織させ、利用すべきである。

開業医の活性化とは

理事 井沢宏夫

「夏期講座」とはいえ、梅雨のあがらない雨降り、ジメジメした気分が悪い東京だった。

では、当分、数年間は増床するところ、つぶれていく病院とスクラップアンドビルトの生存競争が続いていく状況だという識者の発言もあり、深刻さを肌身に感じた。

第二日目は「開業医の活性化」分科会に出席。歴史的にみて開業医が活性化された時期――江戸末期の種痘活動が始まり(漢法医を庄倒)で、大正期の注射技術の導入とサルバルサンの組合せによる駆梅法により黄金時代といわれ

た。戦後は苦しい時代が続き、昭和三十七年に国民皆保険と医学医療技術の進歩による活性化があった。現在は医療再編により開業医は急速に活性化を失いつつある。抽象的ではあるが、二十一世紀に向けて開業医は医療人として、医学・経済・倫理・文化・健康を含め全人的活性化を求められている。

初日は基調報告とシンポジウムがあり、大きな会場も三百人の出席者で大盛況。

医療供給体制の再編など進行中の深刻な状況が生々しく報告され、他人事でないことを痛感した。医療法の改正(悪)をめぐる、新規の救急病院の進出や病院ベッドのかけこみ増床競争もあり、地域の医療生態系(?)に変化が起り、医療法(ベッド規制)に賛成する人まで出てきている。寝屋川市の実態の報告。ベッド数が二百床以下の中小病院

新築住宅地、団地などでは参

た。戦後は苦しい時代が続き、昭和三十七年に国民皆保険と医学医療技術の進歩による活性化があった。現在は医療再編により開業医は急速に活性化を失いつつある。抽象的ではあるが、二十一世紀に向けて開業医は医療人として、医学・経済・倫理・文化・健康を含め全人的活性化を求められている。

従業員講習会

応急処置の実技講習

県下6会場で320名参加



レサシアンネを使つての実技講習が大好評
(7月25日、加賀市市民会館)

六月に三会場(金沢・輪島・七尾)で行われた従業員講習会は、七月にも小松・加賀、そして松任会場を最後に行われ、いづれの会場でも大盛況の二時間で、真剣な顔でメモを取ったり、講師の大橋先生のユーモアあふれる話に大笑いしたりで、たいへんごやかなうちに終了しました。参加者の中からは、もう一度聞きたいという意見も多く、再度計画することも考えています。尚、小松・松任のそれぞれの会場から感想文が届いておりますので、ご紹介します。

目で見、頬で感じ、
手で感ずる

酒井 一枝

医療従事者の講習会で大橋先生の御指導で基本的な処置(止血・心マッサージ・人工呼吸法)を学びました。先生のユーモラスな話術にひかれ、時間の経つのも忘れて聞き入りました。

「アツ、生き返った」

松尾 茂子

人工呼吸法では気道の確保をしっかりと。先日NHKで人工呼吸法を放送していましたが、理論では理解したつもりが、

今後は機会がありましたら参加したいと思っております。ありがとうございます。(小松市整形外科 岩城病院)

りですが、実技の難かしさを痛感しました。マウスツーマウスでは、何度息を吹き込んででも肺に空気が入らず必死でした。数回後成功した時の喜びは、「あー助かった」という気持ちでした。実際に職場で直面することはないかも知れませんが、「目で見、頬で感じ、手で感ずる」を頭において処置したいと思っております。

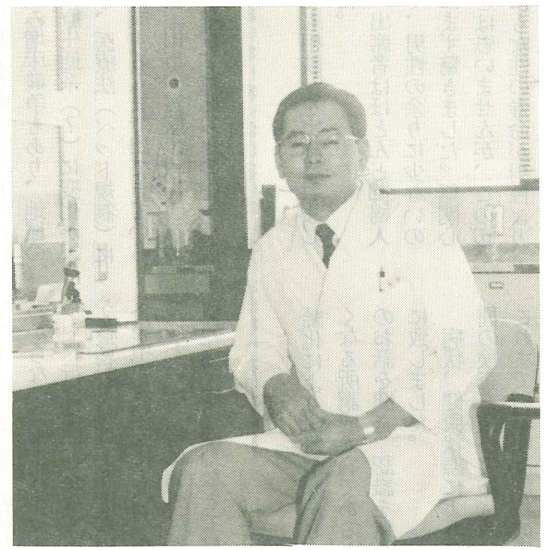
外科看護婦として仕事をさせてもらいながらも、私は恥かしい思いで時間が過ぎるごとに、少しでも忘れないようにとメモをとりました。それは大橋先生の実技を交えてのユーモアあふれる楽しいお話を聞かせていただき、自分がナースとして一番大切な基本的処置をすっかり忘れていたからです。

人形を使つてのマウスツウマウスは一番先に取り組んでみたものの、息を吹き込んで肺は動かさず冷汗の出る思いで再度挑戦し、ふくらんだ肺を見た時は「アツ、生き返った」と思ったものです。又、心マッサージでは手の



町医者機能を活かしたい

加茂 淳先生 の巻



診察室での一コマ

先生は昭和四十九年金沢大学卒、整形外科に入局、富山県中、石川県中などの病院勤務後、昭和五十七年七月、小

松市の北側、梯町で開業された。物事に束縛されるのが嫌いで自分の思う通りに自由闊達

にやりたいとのことで開業に踏み切られたそうである。もともと小松市出身にて独力で土地探しもされ、積極的に開業に向けて努力された由他人に尻を叩かれ開業した者とは一味違うヴァイタリティーが感じられた。科の性質上、ベッド十九床、スタッフ二十名と大世帯で、厳しい点もあるようだが、そこは奥様が内助の功として事務長になられ、獅子奮迅の御活躍で先生自身は診療に専念出来ることである。又、二十名のスタッフにも恵まれ、その点に関する苦労は皆無とのことであった。しかし時には将来への不安も感じるが、なるべく楽天的に考え、深刻

にならないように努めているそうである。「深刻に考える」と憂うつになりますし、患者さんに対して無理しがちになるじゃないですか」と話された。今後の方針としては、自分の境界領域を守りながら、専門外の分野でも相談にのれるようなスクリーニング的なものをやり、町医者の機能を充分に活かしたいと抱負を語られた。先生はスポーツマンで学生時代は野球のエースとして活躍され、近頃はゴルフの方もぼちぼちとなさっておられるとのことである。最後に、保険医新聞は面白く、医師にとっては役立つと思うが、患者さんに対してわれわれ医者の本音や真の診療態度など理解してもらうため、待合室でも出すような、患者向けのものも作ったらどうかと注文された。(聞き手 柳下邦男)



密着した立場で

機関紙・文化部

従来、石川保険医新聞は、内容が多岐に亘り豊富で好評です。それは、いつに初代部長・高松先生から始まり、木戸、大石先生、並びに機関紙部員諸先生、更には事務局の皆様方の努力の賜と敬服しております。

先日も全国機関紙部会が金沢で開催され、書き手が多く読みごたえがあるとお誉めの言葉をいただきました。本年度の広報活動も従来の

方針を踏襲し、更に充実したものにしたと思っております。具体的には次の六項目を基本と致します。

必要とします。寄稿者が限られますと、どうしても傾向が一定化されがちとなります。多角的見地が検討致したいと思っておりますので重ねて多数の会員からの寄稿をお願い致します。

- 一、絶えず会員の生活に立ち返った立場で取り組む。
- 二、具体的な活動を観点を絞って紹介する。
- 三、反対意見も載せ、討論を組織する。
- 四、すぐ生かせる教訓を紹介する。
- 五、活動を多角的に反映するために、モニターを多く依頼する。
- 六、ユーモアあふれる紙面を提供する。

一、二に関しては、その都度、機関紙部員総意のもとに検討してゆきます。

最後に、食へ歩きの会も年四回予定しております。皆様多数のご参加をお願い致します。(部長 柳下邦男)

妻の本音

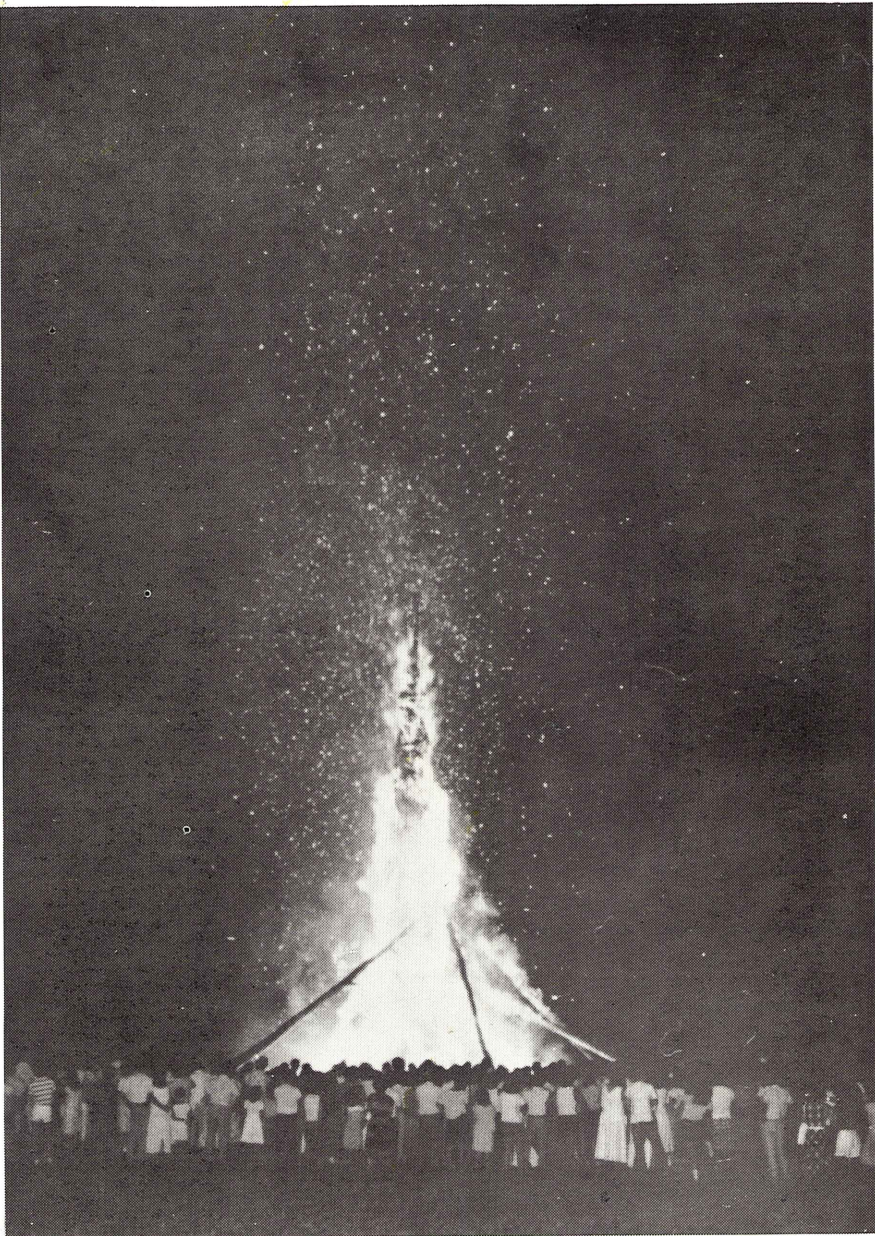
医者 の 女房

金沢市 高橋 れい

医の理想と経済の現実... 妻の不安に気をつかう夫殿に感謝します。

でたのしい生活者のように見られる... 私「そんなことないですよ。」

夫の健康管理に気遣う一人として... 忍耐と愛情問題があるのですぞ。



向田の火祭り

向田の伊夜比咩と男神佐渡の弥彦神が、この日の柱松明をめじるしに逢瀬を楽しむという、ロマンスあふれる火祭りだ。

協会告知板

杉野原スキーツアー

来年は正月3,4,5日

一、天竜下りと木曾路の旅... 四十二名の参加申込み

族・従業員レクリエーション「天竜下りと木曾路の旅」には七月末までに十一医療機関より四十二名の参加申込みがありました。

共済部だより ガソリンの幹旋価格 1ℓ当り142円に

二、恒例のスキー・ツアー 来年は正月三、四、五日 三年前から取り組んできたスキー・ツアーは来年度は二

ガソリンの市況価格の低下に伴い、この度、取引先の三谷石油サービス株式会社及び日本石油との話し合いの結果、一ℓ当り一四二円(従来、一四〇円)にて合意しました。

第2回ゴルフコンペのご案内

石川県保険医協会 日 時 9月23日(月・祭) 午前8時スタート 場所 金沢ゴルフクラブ (金沢市蓮如町一番地) 参加費 三、〇〇〇円

(企画担当 柳下邦男)



一九八五年ル・サロン展
最高賞

「謡と舞」

大野幸治画

受賞にあたって

大野 幸治

世界で最も古い三百有余年の歴史を持つフランスのル・サロン展で、今回思いもよらぬ金賞を受賞することが出来ました。ル・サロン展は日本の日展のような美術展で絵画・彫刻・建築・版画の四部門から成り立っています。かつては印象派のマネ、モネ、ピサロ、ルノワールやバルビゾン派のコロー、ミレー等が同展で活躍しています。

せめて入選だけでもと思い毎年五月、パリーのグランパレ(大宮殿)で開かれる同展に初出品したのですが、大変な賞にとまどっています。作品の大きさは百号で題名は「謡と舞」、富山県八尾町の民謡・越中おわら踊りをテーマにしたものです。哀愁を帯びた胡弓の音に魅せられ四年間八尾に通い続けました。その胡弓の音が風に吹かれて流れる中を若い男女がロマンを秘めて踊る情景を何とか表現してみたいと思って描いたのがこの絵です。

画面を大きく三つに区切り、上段は半抽象的な森と提燈・紅白の垂れ幕にし、中段は女性の踊り、下段は男性の踊りとし、全体として浮世絵風の感じに統一し、そして胡弓の音が風と共に流れる情感をなんとなく男女の人物の上に横に縞模様で表現してみました。画面の構成と色彩の流れが題材とうまくマッチしてくれたように思います。この絵全体から流れ出る情緒が風に乗ってパリに届いてくれたのではないかと思っています。